

『透ける・ゆらぐ』新たな明かり商品を開発
陶磁器とLEDのコラボレーションで

平成22年度 採択事業

株式会社 松齋陶苑
代表取締役 安田久世さん



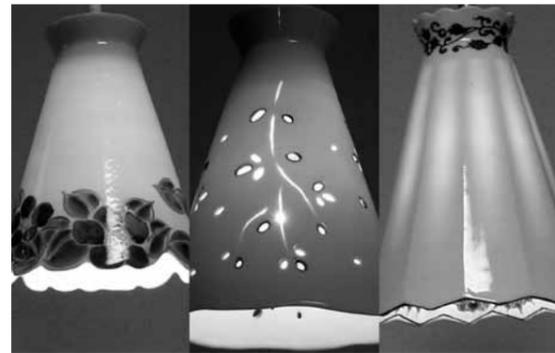
安田久世さん

清水焼の新分野開拓をめざして

京焼・清水焼の窯元である松齋陶苑は、明治初年に初代松齋が清水産寧坂にて開窯した老舗窯。当初は陶彫作品を中心に制作していましたが、以降、今熊野日吉町への移築や株式組織への改組などを経て、現在は主に割烹和食器の製造販売を行っています。

歴史と実績はあるものの、和食器の需要は年々減少しているのが現状。特に同社の製品は“小ロット手づくり製作”のため、どうしてもコストがかかります。高価なものは敬遠されがちなうえに、他産地や海外の競合製品も多様。「何か新しいものをつくりたいと考えていたちょうどそのとき、LEDを扱う業者から『陶磁器で照明器具をつくってみたいか』という話が来たんです」と代表取締役の安田久世さん。

試作に取りかかった同時期、今度は京都府の事業への参加で、陶磁器製ペンダントライトを製作する機会に恵まれました。このライトの評判がよかったことで自信をつけ、照明分野への可能性を感じた安田さんは「次はLEDでやってみよう、テーブルライトやスタンドなど、いろいろ展開していきたい」と意欲的に。本気で商品開発に取り組むべく応援ファンドに応募し、採択されました。



ペンダントライトのバリエーション

陶磁器らしい、清水焼らしい明かりを

LEDは自然の炎のような“ゆらぎ”を表現することが可能で、色のバリエーションも豊富です。また、透光性のある素材を使用することで本体からもほんのり光が漏れるため、透かし彫りとの組み合わせで実にさまざまな表情をつくり出すことができます。「深く彫って穴を開けた部分と、浅い彫りで穴が開く手前で止め、地が薄くなった部分では、漏れ出る光のニュアンスが違います。そういった技法も上手に使い分けながら、和紙ではなく、木でもない、陶磁器でなければできない明かりを追求していきたいですね」。

陶磁器ということ以上に突き詰めたいのはやはり、清水焼らしさ。割烹和食器の世界は比較的に狭いため清水焼の

知恵と卓越した技術 伝統製品の活用

地位は確保されていますが、明かりの世界は非常に広く、照明器具をインテリアとしても捉えるなら、さらに市場は広がります。「かなり競争の激しいところへ参入していかねばならない。しかも私たちは、後発も後発。よほど特化しなければ難しい。清水焼の“手づくり、上質、量産できない”という部分を強調して、だからこの価格になるんだと納得してもらい、それでも欲しいと思ってもらえる商品をつくらなければ…」。

今までは和室、床の間を想定した商品が大半でしたが、今後はお客様のライフスタイルに合わせたインテリアの要素も意識し、マンションに映える間接照明なども考案していくつもりです。



作陶風景

素材の開発に苦労

試作を進めていくうえでの苦労を尋ねると、一つは素材だと。意外なことに、これまで清水焼の照明器具が製品化されたことはなかったそうで、京都では透光性を持つ適切な素材が入手できませんでした。そのため照明製品の先発である九州の産地から数種類の材料を取り寄せ、程よい透光性を得られる配合を研究しながら独自にブレンド。長石などガラス質の材料を多めにすると透光度は高くなりますが、その分、粘性は低くなるため成形しづらく、細工も困難になります。「脆い扱いが難しいため、思い通りのデザインを表現できないこともある。素材の開発にはほんと手こずりました」。

また、今回の事業ではプロのプロダクトデザイナーとのコラボにも挑戦していますが、「これを陶器でやる意味があるのか？」というデザインが上がってくることもあり、随分葛藤があったといいます。陶器の特性、そしてこの製品が陶器である必要性を、共通認識として持つ重要性をあらためて感じた安田さんです。



『京の灯（あかり）作品展』で入賞

「もちろん、ゆくゆくは海外へ…」

今後の新たな展開としては、異素材とのコラボ商品を増やしたいと考えています。「陶磁器だけでは限界があると気づきました。既に“扇”と組み合わせた商品などをつくっていますが、もっと別の展開を考えていきたい」とのこと。ペンダントライトの種類は増えてきたものの、置き型の商品がまだまだ少ないので、それも徐々に強化していくつもりです。

研究と試作を続けるなか、並行して積極的に行っているのが、展示会等への出品。各方面からの問い合わせ、意見を得られるのは大きなメリットで、それが重要な改良に結びつくこともあります。昨年秋には、京都で開催された国民文化祭の『京の灯作品展』に出品し、佳作賞を受賞。「ここでワンステップ弾みがつきました。商品開発は時間のかかる地道な作業ですが、そろそろ流通経路に乗せられる商品をつくる段階に来ている。受賞を励みに頑張りたいですね」と安田さん。

商品のラインナップが調べば、ブランドの構築、販路開拓、ホームページの作製など、次の作業が待っています。「もちろん、ゆくゆくは海外へ…」との夢をエネルギーに、一歩一歩前進あるのみです。

事業概要

株式会社 松齋陶苑
http://www.shousai.com/
代表：安田久世
業種：陶磁器製造業
創業：明治元（1868）年 設立：昭和24（1949）年
住所：〒605-0925 京都市東山区今熊野日吉町25番地
TEL：075-541-1346 FAX：075-541-1349